

議会報告会記録（平成 23 年 11 月 1 日（火） 北部公民館）

1 部 議会報告

6 月議会に関する質疑応答

問：任期付職員の法律上の身分は。

答（井上）：条例は廃止されたが、任期を限って採用されており、その期間中は正規職員である。

問：全国的に任期付職員の条例を廃止したところはない。法的にどうなるのか。任期が終わってから廃止することも可能だと思うが、廃止を急ぐ必要があったのか。

答（井上）：市長は選挙時より、この制度に疑問を感じていた。議会に提案することで、議論を行い、今後の対応を検討していくと述べた。反対する意見も議論の中で出たが、賛否をとって最終的に廃止と決まった。

問：法的に議論したのか。市民の反対が多いというのは、アンケートをとられたのか。客観的な数字に基づいているのか。

答（井上）：市民の中には反対の声があるというのは、議員の意見。条例がなくなっても、任期付職員としての採用の契約は変わらず、法的に問題はない。任期付職員がいる間は条例を残すべきだという意見も複数出ていた。そういった議論も含めて、賛成多数で廃止された。

問：市長が 30%カットしても市の財政は潤わない。市職員全体で、30%カットしては？そうすれば財政が潤うのではないか。

答：市長マニフェストに人件費 2 割削減の公約がある。さまざまな施策を実現するためにも、財源を確保し、特別職の給料カットも取らざるをえないということで、議会でも認められた。職員の給与についても、職員の思いもある。強行する気はないが、市長の思いも理解してもらい、人件費の抑制も論議されていた。

9 月議会に関する質疑応答

問：①固定資産評価委員は何名か。その方で評価を決めておられるのか。

②水道料金に関して、基本水量を改定した理由、加西市の平均はいくらか。

③自転車を通れるような歩道をつくってほしい。全面的な加西市の対応をお願いしたい。

④職員は勤勉手当と期末手当で 4 カ月もあるが、議員の期末手当が 3.95 カ月である理由は。

⑤陳情 5 号について、採決をとった部分が、インターネット中継が切れている。それはなぜか。

答（井上）：①固定資産評価委員の選任については、新たに選任すること。その対象者は市職員である。

答（三宅）：②基本水量について、10 立方メートルから、8 立方メートルに変えた。全体で

4分の1の方が20%以上の減額になる。市長の公約に近づけるためにも、水道料金の改定があった。

答（井上）：③歩道が狭いとの要望を受けたものである。道路の改善をすすめるべきということで採決された。

答（三宅）：④この道路は大変事故が多く、加西から姫路へ行くときに多く利用する危険個所で、通学路がない。道路の拡幅と歩道設置の請願であり、執行者にできるだけ早くお願いしたいということで採択した。

答（井上）：⑤期末手当の引き下げも意見の一つであると思う。1年間の状況を見て、意見も聞きながら、議員報酬について検討していきたいという結論になった。30%減の陳情は、特別職の給与カットを踏まえて、議会も対応すべきということで、議員報酬検討の委員会を設置し、さまざまな意見があって、結果として昨年と同様の期末手当のカットにこうなった。今後も引き続き議論していく。ライブ中継はすべて配信されているが、インターネットの中継が切れていることは、承知していない。

問：⑤都合が悪いから、放映は消しているのか。

答（森田）：確認していないが、ライブではそのまま流れている。委員会の採決までは、放映されていると認識している。

問：消えていれば戻してもらえるのか。

答（森田）：放映は事務局に一任しており、確認する。

※確認した結果、指摘のような事実はなく、すべて公開されていました。

問：議員一年生の働きぶりを見て、報酬を下げるとは？働きぶりとはどういうことか。

答（井上）：働きぶりというより、議員としてどういう仕事があるのか1年経験してから判断すべきという、一つの意見だ。

問：議員の期末手当だけで3.95カ月あるのか。市職員では、期末と勤勉手当で合計4カ月となっている。半分の2カ月ぐらいでいいのではないか。

答（井上）：職員と同じ月数で支給できると条例で決まっている。職員と同じにすべきかどうか、今後の報酬の検討に際し、参考にしていきたい。

問：他の議会報告会で出た意見で、重要だと思うところは。

答（井上）：任期付職員、議員報酬などの意見が出ていた。加西市全体の方向性、人口減や学校、地域に関する意見もあった。

問：配布資料に数字を入れてほしい。市職員の給料について、議員から提案し、もう少し考えてほしい。自分たちで決められないなら、それを決める一般市民による委員会をつくって行いべき。議員報酬の具体的な数字を聞きたい。

答（井上）：資料について、わかりやすい内容に工夫していきたい。職員の給与は、人事院勧告などに基いており、今後議論していくだろう。議員報酬については、議会だよりに掲載している。

答（森元）：議員一人、年間 610 万 4,182 円から 19 万 958 円のカットし、591 万 3,224 円となった。

問：カットばかりでなく、企業誘致など、加西市に活気が出るようにしてほしい。

答（井上）：総合計画に基づいて、実施計画が立てられ、議論を行っていく。全国での人口減の流れの中で、大変な努力が必要で、国を含めた少子化対策も求められる。議会も活性化の議論をしていく。

答（森田）：議員報酬については多数意見をいただいている。5 万人都市の再生に向けて、議会でも人口増対策特別委員会を立ち上げている。現状を踏まえて、いろんな意見を出していき、執行者とともに、人口増対策に向けて頑張っていく。議員報酬について、特別委員会を立ち上げ、閉会中から審議をしてきた。1 年生議員の働きぶりを見て決めるかの発言があったが、1 年間活動した上で報酬を考えていきたいという意見である。委員会の結論としては、0.45 か月分をカットし、来年も報酬を検討していくことになった。議員報酬の改正にあたっては、審議会、議会基本条例にある参考人制度や公聴会など、幅広く意見を聞くこともできるが、現状として、これまでどおり踏襲して 1 年間様子を見る結論に至った。

2 部 市政全般についての意見交換

問：教育委員選任の件については。

答（井上）：個人の文書云々は、この場で答えることはできない。教育委員の同意については、それぞれの判断によるもの。裁判になるなら、その推移を見守っていく。

問：イノシシ・シカ対策に力を入れてほしい。シカにぶつかって死亡する事故も発生しており、国、県、市が一緒になって取り組んでほしい。

答：ずいぶん前から被害が出ており、これまで委員会でも議論してきた。今、加西市は 400 万円程度の予算を組んでおり、9 月の補正予算でも県からの補助が出ている。シカ 1 頭捕獲につき、9 千円の補助を出して取り組んでいるところ。また、猟友会でもシカの駆除をお願いしている。今年、防御柵も設置するなどしているが、根本的な対策はとれていない。これからも、県や市をお願いしていく。

答（森田）：イノシシ・シカ対策について、毎年議会で取りあげており、市へ十分な手立てをするように議会から意見している。被害が増大している現状について、県も対策を講じるとしている。

教育委員の件は、何を取り上げてもいい、何を質問してもいいということではなく、議会は品位を保たねばならず、言葉づかいに気をつけるだけでなく、個人の私生活を取り上げることはできないと地方自治法に明記されている。議員への投書はあっても、議員の判断による。市長の答弁は、そういったことも踏まえて、教育長をお願いしたとの答弁があった。執行者の動きを見て、議会としても判断していく。

問：学校あり方委員会の提言で、統合の条件が書かれている。小中学校でも 150 名程度になれば議論しないといけなくなっていたが。

答（井上）：しなければならないということではない。早い時期から地域との協議をすすめていくべきとの提言であった。

問：150 名になって、統合の議論を始めるということなのか。

答（森元）：その数も含めて、地域の中で議論を深めていきながら、すすめることになる。

問：人権問題でないとすれば、大変な問題だ。

答（森田）：議会が人権侵害、差別どうこう判断する機関ではない。報告会の中で発言するのを控えてほしい。

問：イノシシ・シカ問題について、議会が来年度どれだけ市に予算要望しているのか？国や県に要求してほしい。また、水害にしても、山間部では土砂崩れも多くなってきている。災害に強いまち、きめ細かな対策をお願いしたい。

答（井上）：獣害対策について、泉町で頭を悩ませていることは承知している。行政にその声を届けていく。防災対策については、国でも見直しがすすめられている状況で、加西市にもそれが反映されていく。

答（黒田）：シカ対策は一頭につき 9 千円、今回の補正予算でイノシシ・シカ対策に 260 万円、防御柵には 512 万円を組んでいる。